

ステップゴルフ株式会社

榎本考修

代表取締役CEO



ENOMOTO TAKANOBU

「100万人のゴルファーを創出したい」

今年4月、スポーツ専門動画サービス「DAZN」の番組「FRONTIER OF SPORTS」で、元サツカー日本代表の榎野智章さんと対談した榎本CEO。番組では「インドアゴルフ界の革命児」として紹介された。

榎本CEOは1979年、大阪市生まれ。小学校から野球を始めて中学校はPL学園に入学。「甲子園」を夢見ていたが、PL学園中学には軟式野球部がなく、高校に進学しても硬式野球部には入れないことがわかり、夢が途絶えた。気持ちを切り替えて公立高校を受験しようと勉強に励んでいたそのとき、両親が言った言葉が運命を変えた。

「ゴルフがいいよ。将来必ず役に立つから。ゴルフ部の寮に挨拶に行こう」

しかし、PL学園高校のゴルフ部はセレクションで選別された5人ほどしか入れない超名門ゴルフ部。監督からは「無理」と言われて取り付く島もなかった。

「無理と言われて本当に悔しかった。悔しくて、ムカついて、無理なことは世の中になんと言いついて、決してゴルフがやりたかったわけではないのに反発して、教頭先生に直談判しました」

その日から中学卒業までの半年間、ゴルフ部が練習しているゴルフコースの練習場の掃除と、竹ぼうきでの素振りを続けた。

「プロゴルファー猿みたいな練習を教わって、柱を見ながら座ってブーンと振る。最後の1カ月ぐらいで実際に球を打った

その時の自分が許せたのでしょ」

育ててくれたゴルフに恩返しを

起業したのは2006年。大阪・本町にある大阪国際ビルのシェアオフィス。机ひとつでのスタートだった。社名は両親が営んでいた刺繍屋の名前を借りてアイエム株式会社。ゴルフ用品の販売やレッスンプロの派遣などを手掛けた。

「100万個売れたゴルフボールもあって、ゴルフ雑誌で取り上げられたこともありました。ただ、所詮商社は川中。僕は川上になることしか考えていなくて、12年前に自らサービスマスターを立ち上げました」

これがステップゴルフの始まりだった。

「ゼロから生み出したサービスマスターに価値あるものにするか。元々、19年前に起業した時から、ゴルフをやる人を増やすことが、自分が育ててもらったゴルフに対する恩返しになるし、健康に良いスポーツを世の中に増やしていければ健康寿命延伸につながると思っ

ら、スパーンと打てるようになっていた。教頭先生は、最初から最後までようやうた、と言って無理を通して入部させてくれました」

無理なことは世の中になん——。これはいまビジネスの世界でも貫いている信念になっている。

賞金をもらう側から出せる側に

高校では1年生時の冬の新人戦で78のスコアをマークして大阪府大会で2位に入るなど頭角を現した。全国大会は行けると思っていたが、高校2年の夏の大会は予選で敗退。自分を奮い立たせるために「プロゴルファーになる」と言い出した。

「普通は優勝して俺はプロになると言うんでしょが、挫折してプロになるっておかしいですよ(笑)。無理だと言われれば奮起するし、挫折したらプロになると言

う。でも父と母は25歳までという条件で、それまでは黙って応援してやると言ってくれました」

高校卒業後は大阪学院大に入学。キャディーのアルバイトをして家賃を自分で払いながらゴルフ部で試合に出る日々。卒業後はツアープロとしてミニツアーに出ながらビッグツアーに出るチャンスを得る厳しい闘いの日々が続いた。

そんな生活に25歳で区切りをつけたのは父との約束があったから。

「約束を守らなかつたら、多分ズルズルと辞められない人になつていたと思います。父親にはよくぞ練を引いてくれたという思いです。あのままゴルフをやり続けていたら、ツアーで1勝はできたかもしれませんが、毎年優勝して賞金王になるイメージはなかった。それは僕の人生にとつての勝ちではないと感じて、賞金をもらう側から出せる側になろうと(笑)。そう考えると

インドアゴルフスクールを全国で115店舗展開するステップゴルフ。「世の中に無理なことはない」と信じる榎本考修代表取締役CEO(45)は元プロゴルファーの起業家だ。日本人の健康寿命を延伸させるために、そしてゴルフへの恩返しのために、100万人の新規ゴルファー創出を目指す。

続きはデジタルブックで
ご覧いただけます。
詳細はこちら▶